A-Lab
あまらぶアートラボ

尼崎市

お問合せ

尼崎市　シティプロモーション推進部　シティプロモーション事業担当
TEL：06-6489-6385（イベント時　06-7163-7108）
FAX：06-6489-6793
E-mail：amalove.a.lab@gmail.com

A-Lab

archive
vol.16

A-Lab archive

それぞれのリアル

大洲 大作
川崎 誠二
小林 哲朗
品川 美香
三枝 愛

あまらぶアートラボ A-Lab archive vol.16

それぞれのリアル

■出展作品 3

大洲 大作 3

川崎 誠二 5

小林 哲朗 7

品川 美香 9

三枝 愛 11

■アーティスト･トーク 13

■ワークショップ 25

■展覧会フライヤー･配布資料 29

大洲 大作
Oozu Daisaku

1973 年生まれ、大阪府出身。美術家。写真を軸に、営為を風景にみる。列車などの車窓にうつろい滲む、営為をうつす光そして影を掬い上げる《光のシークエンス》シリーズなどを制作。近年は列車の「車窓」に材を取ったインスタレーションを発表している。

《Flood plain》
阪神電車・阪急電車・京阪電車・京阪神緩行線などの車窓を撮影した写真、鉄道車輌の戸袋窓、プロジェクター／
約 950×500×30mm ／ 2018

神崎川を渡れば尼崎、淀川を渡れば大阪。川の街に私は生れた。武庫川、夙川、芦屋川、住吉川を渡って神戸へ。淀川、桂川を遡って京都へ。左門殿川、庄下川、消えた大野川に正蓮寺川。杭瀬に四貫島にうねる街路。いま光をうつす水面だけが、目に見える川面だけが川ではない。
打ち寄せる波、光。氾濫原を縫うように、列車は走ってゆく。

《光のシークエンス - Trans / Lines》
東北新幹線の車窓を撮影した写真、新幹線 E2 系電車の窓、プロジェクター／
約 500×350×200mm ／ 2017

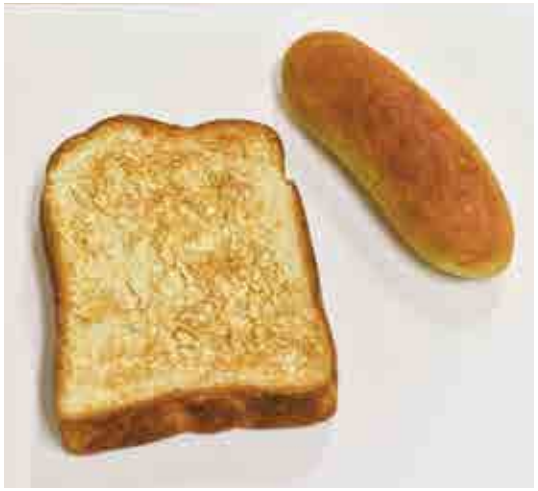
《警報灯》
踏切警報灯、点滅回路／ 380×380×350mm ／ 2018

川崎 誠二
Kawasaki Seiji

1984 年生まれ、静岡県出身。2014 年に、姪の夏休みの工作に触発されて《木彫りのトースト》を作ったことをきっかけに、本物そっくりの食べものやユーモラスなキャラクターなどの木彫を始める。

《埋まっているオクラ》シナ、アクリル絵の具／ 50×150×40mm ／ 2015
《オクラ》樺、アクリル絵の具／ 30×130×30mm ／ 2016
《ピーナッツチョコ》楠、アクリル絵の具／ 30×30×30mm×2 個／ 2015
《マシュマロ》ジェルトン、アクリル絵の具／ 30×30×30mm×2 個／ 2017
《ひとくちチョコ》ジェルトン、西洋ツゲ、アクリル絵の具／ 30×40×10mm×3 個／ 2017
《たまごボーロ》シナ、アクリル絵の具／ 20×20×20mm×3 個／ 2017
《アポロ》ジェルトン、アクリル絵の具／ 150×150×150mm ／ 2016
《白桃》檜、アクリル絵の具／ 100×100×100mm ／ 2017
《煮干し》西洋ツゲ、アクリル絵の具／ 50×100×30mm ／ 2017
《煎り大豆》西洋ツゲ、アクリル絵の具／ 20×20×20mm ／ 2017
《梅干し》桂、アクリル絵の具／ 30×30×30mm ／ 2015
《美味しい流木板チョコレート》流木、アクリル絵の具／ 100×500×60mm ／ 2015
《とんがりコーン》ジェルトン、アクリル絵の具／ 30×50×30mm ／ 2016
《チータラ》ホワイトウッド、アクリル絵の具／ 10×150×10mm ／ 2016
《海苔巻きあられ》ジェルトン、アクリル絵の具／ 20×40×20mm×2 個／ 2017
《かっぱえびせん》ジェルトン、アクリル絵の具／ 20×50×20mm ／ 2016
《チーズアーモンド》西洋ツゲ、アクリル絵の具／ 50×50×20mm ／ 2016
《麦チョコ》シナ、朴、アクリル絵の具／ 40×40×10mm×12 個／ 2018
《桜》シナ、西洋ツゲ、アクリル絵の具／ 80×80×80mm ／ 2018
《磯辺巻き》桂、アクリル絵の具／ 70×100×30mm ／ 2017
《大福》シナ、アクリル絵の具／ 70×70×40mm ／ 2017
《鰺のお刺身》流木、アクリル絵の具／ 150×350×120mm ／ 2016
《板チョコレート》檜、アクリル絵の具／ 200×200×50mm ／ 2018
《ピーマン》シナ、アクリル絵の具／ 40×90×40mm ／ 2016
《そら豆》シナ、アクリル絵の具／ 30×40×20mm ／ 2016
《枝豆》樺、アクリル絵の具／ 30×80×30mm ／ 2015
《茗荷》桂、アクリル絵の具／ 40×90×40mm ／ 2015
《唐辛子》西洋ツゲ、アクリル絵の具／ 20×90×20mm ／ 2017
《ボイルエビ（バナメイ）》シナ、アクリル絵の具／ 80×80×30mm ／ 2016
《ローストビーフ》桂、アクリル絵の具／ 70×70×10mm ／ 2016
《ポテトチップス》ジェルトン、樫、アクリル絵の具／ 120×120×30mm×4 個／ 2017
《柿ピー》シナ、アクリル絵の具／ 100×100×20mm（柿 19 ピー 4）／ 2018
《焼き芋》シナ、アクリル絵の具／ 150×70×70mm ／ 2017
《一寸豆（鞘入り）》朴、アクリル絵の具／ 200×200×100mm ／ 2018
《立ってるじゃがいも》栃、アクリル絵の具／ 70×70×100mm ／ 2016
《アスパラガス》ホワイトウッド、アクリル絵の具／ 20×20×250mm ／ 2016

木でそっくりな物を作っています。私の木彫り、例えばトーストを見ているとき、あなたは本物のトーストを見ているかのような感覚がするかもしれません。ですがここにあるのは私が木から作ったものでしかありません。人が物を見ているとき、実は目の前にあるそのものだけを見ているのではありません。頭の中にある経験と記憶を通して、目の前にあるものを見ているのです。私の作ったものはその 1 枚のトーストに過ぎませんが、あなたが見ているのはこの 1 枚のトーストと今まで食べてきた沢山のトーストなのです。



左 :《厚切りトースト》
シナ、アクリル絵の具／ 150×110×40mm ／ 2018
右 :《コッペパン》
シナ、アクリル絵の具／ 170×60×60mm ／ 2015

《一寸豆》
シナ、アクリル絵の具／ 70×70×30mm×3 個／ 2018

奥 :《エノキ》
シナ、アクリル絵の具／ 50×200×130mm ／ 2017
手前 :《エリンギ》
ジェルトン、アクリル絵の具／ 50×50×200mm ／ 2017

《ゴーフル》
桐、アクリル絵の具、ゴーフル缶／ 200×200×10mm ／ 2018

小林 哲朗
Kobayashi Tetsurou

1978 年生まれ、尼崎市出身。巨大建造物、地下空間、廃墟など、身近な異世界をテーマにした作品で知られる。ドローンによる空撮やポートレート撮影、カメラ雑誌への執筆、撮影イベントの講師、工場写真についての講演など、幅広く活動している。

写真はレンズを通った光を記録したもので、その場の真実を写し込むものではありません。しかしながら、レンズの効果を使った演出や、高解像度のセンサーを用いることによって、リアルよりリアルを体感できるような時代になってきていると思います。今回はドローンを使って新しい視点の発見にもチャレンジしています。

《レンゴータ》
紙、インクジェットプリント／ 2950×905mm ／ 2018

《レンゴー闇》
紙、インクジェットプリント／ 2950×905mm ／ 2018

壁面 :《メカワールドへ》
紙、インクジェットプリント／ 3500×2335mm ／ 2016

床面 :《電子の回路》
紙、インクジェットプリント／ 5779×4340mm ／ 2017

左から :《さよなら時友》
紙、インクジェットプリント／ 2895×905mm ／ 2018

《窯の中で》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm ／ 2018

《お花見で》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm ／ 2018

《モノレールで》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm ／ 2018

《スターハウスで》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm ／ 2018

《シールドマシンで》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm（部分）／ 2018

《ジャングルジムで》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm ／ 2018

《煙突で》
紙、インクジェットプリント／ 417×905mm ／ 2018

品川 美香
Shinagawa Mika

1988 年生まれ、熊本県出身。京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻修士課程修了。
子どもの顔や花、蜂、ストライプなどを組み合わせて、独特の時間と空間を持った作品を描く。

私は、子どもの存在に可愛さ・怖さ、既知性と未知性などの両義性と二重性を見出し、描いています。それらは、私自身はもちろん、誰もが少なからず持っている普遍的なものではないでしょうか。効率性や利便性が優先される時代で、物心ついた時から生きづらさを感じてきました。そんな時代だからこそ、時間をかけてモチーフと向き合い、絵を丁寧に描く素朴な行為に価値があると考え、その行為を通して問い続けています。

《How to Be Good》（部分）

《How to Be Good》
パネル、綿布に油彩、アクリル／ 2550×3420×60mm ／ 2016

《Spring》
パネル、綿布に油彩、アクリル／ 533×533×50mm ／ 2018

《見えるものと見えないもの》
パネル、綿布に油彩、アクリル／ 1000×1000×50mm ／ 2018

三枝 愛
Mieda Ai

1991 年生まれ、埼玉県出身。東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士課程修了。2014 年秋から、自身の生まれ育った環境とその変化を見守る作品《庭のほつれ》を展開。2016 年より、京都を拠点に活動。「ものに込められた人の意志を預かること」を考えている。

《庭のほつれ》
おがくず、原木、椎茸用封蝋、瓶、絹糸 (コナラ、鉄媒染による染色)、絹布 (コナラ、銅媒染による染色)、綿、和紙に拓本、作文用紙に鉛筆、インク、麻紙にコロタイプ印刷 · 彩色、パネル、その他／サイズ可変／ 2015-2018

東日本大震災に伴う原発事故の影響で、家業の椎茸栽培は、原木不足により生産量が激減しました。私は、庭のように親しんできた環境が失われていくさまを「庭のほつれ」と呼び、椎茸栽培に用いられる道具や素材を展示空間に移築したり、拓本や染色によって、色や形を写し取る試みをしています。ものに込められた意志をどのようにして預かる／弔うことができるのかを、この作品を通して考えています。